



ピュア・グープ

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

改訂日: 2024/05/06

発行日: 2021/02/10

バージョン: 2.0

セクション1: 化学物質特定情報および会社情報

製品特定情報

製品形態 : 混合物
製品名 : ピュア・グープ

該当物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途

物質／混合物の用途 : ねじ潤滑剤
使用上の制限 : 追加情報なし

安全データシートの作成者に関する詳細

会社、メーカー
株式会社 ヴィーガ・マニファクチャリング
29495 F.A. Lennon Drive
オハイオ州ソロン44139
米国
+1-440-519-4000
www.swagelok.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 : Infotrac: 1-800-535-5053

セクション2: 危険有害性の要約

物質または混合物の分類

GHS-JP分類

未分類。

ラベル要素

該当する表示なし

その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性 : 既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。供給された本製品は液体である。ただし、本製品を乾燥させると、加工時に可燃性粉塵が発生するおそれがある。可燃性粉塵を取り扱う時は注意する。適切な工学的制御を使用して、浮遊粉塵の発生を最小限に抑える。

セクション3: 組成／成分情報

物質または混合物の識別 : 混合物

JIS Z 7253およびJIS Z 7252の意味では、この混合物の成分は開示する必要はない。

セクション4: 応急措置

応急措置の説明

一般的な応急措置 : 意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける（可能な場合は製品のラベルを提示する）。
吸入した場合の応急措置 : 症状が発生した場合：屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合の応急措置 : 汚染された衣類を脱ぐ。刺激の少ない石鹸と水で皮膚をよく洗う。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。
眼に入った場合の応急措置 : 水で5分間以上注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。
飲み込んだ場合の応急措置 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師による手当てを受けること。
応急処置をする者の保護と対策 : 適切な個人用保護具 (PPE) を使用する。

最も重大な症状および影響（急性および遅延性）

症状／影響 : 通常の使用において予測される条件下では、重大な危険有害事象の発生は見込まれない。

ピュア・グープ

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

吸入した場合の症状／影響

：主な暴露経路とは予想されない。PTFEの過熱による煙の吸入は、ポリマーヒューム熱、発熱、悪寒、時には咳を伴う一時的なインフルエンザ様疾患を引き起こすことがあり、約24時間持続します。粉塵が発生する場合：粉塵は有害であるか、刺激を起こすおそれがある。

皮膚への接触後の症状／影響

：長時間暴露により、皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。

眼に入った場合の症状／影響

：眼にごく軽度の刺激を引き起こすおそれがある。

飲み込んだ場合の症状／影響

：飲み込むと有害な影響を及ぼすおそれがある。

慢性症状

：通常の使用条件下では予想されない。本製品に含まれる非晶質シリカは、不純物として結晶質シリカ(クオーツ)を含まないため、慢性有害性には分類されない。

医師による即時の手当ておよび特別な治療の適応となる症状

ばく露した場合やばく露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合は、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火媒体

：周囲の火災に適した消火媒体を使用すること。

不適切な消火媒体

：強力な放水を使用してはならない。強力な放水の使用により火災が拡大するおそれがある。

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性

：可燃性ではないが、高温では燃焼するおそれがある。

爆発危険性

：製品自体は爆発性ではないが、粉塵が生成されると、空中に浮遊する粉塵雲が爆発性になることがある。可燃性粉塵である物質を含む。乾燥して蓄積すると、空气中に可燃性粉塵濃度が形成され、発火して爆発を引き起こすおそれがある。適切な予防策を講じる。

反応性

：通常の条件下では有害な反応は発生しない。

消火時の注意事項

火災に関する予防措置

：化学物質による火災の消火は慎重に行う。

消火時の指示

：露出した容器の冷却には水噴霧または水霧を使用する。

消火時の防護

：呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。

有害燃焼生成物

：260°Cを超える温度で分解し、有機塩素化合物、有機フッ素化合物、フッ化水素、塩素ガスを生成するおそれがある。炭素酸化物(CO、CO₂)。シリカ化合物。フッ化カルボニル。四フッ化炭素。

その他の情報

：本製品には、可燃性粉塵の可能性のある成分が含まれています。発火源のある十分な量の空気中では、この物質は可燃性粉塵の危険性がある。適切な予防策を講じ、火花などの発火源を避けること。

セクション6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

一般的な措置

：眼、皮膚、衣類への長時間の接触は避けること。呼吸を避けること(蒸気、ミスト、スプレー、粉塵)。

二次災害の防止策

：粉塵を発生させないこと。発火源を除去する。

緊急救援隊以外の人員

保護具

：適切な個人用保護具(PPE)を使用する。

緊急措置

：不必要な人員を退避させる。

緊急対応にあたる人員

保護具

：浄化担当スタッフに適切な保護具を着用させる。

緊急措置

：現場に到着したら、まず危険なものがいないことを確認し、自分自身や人々の身の安全やその付近の安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。当該領域の換気を行う。

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。

封じ込めおよび浄化の方法・資材

封じ込め

： 漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。

浄化方法

： 漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。

他のセクションの参照事項

暴露防止と保護措置についてはセクション8を、廃棄上の注意についてはセクション13を参照すること

セクション7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

加工時の追加的有害危険性

： 供給された本製品は液体である。ただし、本製品を乾燥させると、加工時に可燃性粉塵が発生するおそれがある。可燃性粉塵を取り扱う時は注意する。適切な工学的制御を使用して、浮遊粉塵の発生を最小限に抑える。PTFEの過熱による煙の吸入は、ポリマーヒューム熱、発熱、悪寒、時には咳を伴う一時的なインフルエンザ様疾患を引き起こすことがあり、約24時間持続します。260°Cを超える温度で分解し、有機塩素化合物、有機フッ素化合物、フッ化水素、塩素ガスを生成するおそれがある。

技術的対策

： 粉塵の発生、広がり避ける。

安全な取扱いに関する注意事項

： 飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹸と水で洗浄する。眼、皮膚、衣類への長時間の接触は避けること。蒸気、ミスト、噴霧の吸入は避けること。

混触危険物質や混合物の取り扱いを防止

： 次のものを避けること：混触危険物質。

衛生対策

： 労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。

局所および一般的な換気

： 十分な換気を確保する。

安全な保管の条件(混触危険性を含む)

技術的対策

： 適用される規則を遵守する。

保管条件

： 使用していない場合は、容器を閉めておく。乾燥した、涼しくて換気の良い場所に保管する。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて保管する。

混触危険物質

： 強酸、強塩基、強酸化剤。ハロゲン化合物。金属の細分化。アミン。フッ素。三フッ化塩素。ナトリウム。カリウム。バリウム。カルシウム。

特定の最終用途

ねじ潤滑剤

セクション8: ばく露防止および保護措置

管理基準

追加情報なし

生物学的限界

追加情報なし

暴露防止

適切な工学的管理

： 一般に不要である。条件に応じて、個人用防護具の着用が必要になることがある。暴露の危険性のある区域の近くに、目の洗浄および身体洗浄に適した設備を設置しなければならない。特に狭いエリアでは、十分な換気を確保すること。国／地方公共団体の規則を確実に遵守する。

個人用防護具

： 手袋。保護衣。防護ゴーグル



保護衣の素材

： 耐化学物質性の素材および繊維

手の保護

： 保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

： 化学薬品対応の安全ゴーグル

皮膚および身体の保護

： 適切な保護衣を着用すること。

ピュア・グープ

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

呼吸器系の保護

： 暴露限界値を超えるか、呼吸器への刺激が発生した場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用する必要がある。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用すること。

熱危険性の防護

： 高温の材料を取り扱う場合は、適切な熱保護衣を着用すること。

その他の情報

： 本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

セクション9: 物理的および化学的性質

基本的な物理的・化学的性質に関する情報

物理的状態	： 液体
外観	： 貼り付け
色	： 白色
臭い	： 中性
臭いの閾値	： データなし
pH	： データなし
蒸発速度	： データなし
融点	： データなし
凝固点	： データなし
沸点	： 該当なし
引火点	： 該当なし
自然発火温度	： 該当なし
分解温度	： データなし
燃焼性	： データなし
蒸気圧	： データなし
相対蒸気密度(@ 20°C)	： データなし
密度	： データなし
相対密度	： 2,1(水=1)
溶解度	： データなし
分配係数:N-オクタノール/水	： データなし
粘度	： データなし
動粘度	： データなし
爆発限界	： データなし
粒子特性	： データなし

その他の情報

追加情報なし

セクション10: 安定性および反応性

反応性

通常の条件下では有害な反応は発生しない。

化学的安定性

推奨される取扱いおよび保管条件下にある場合は安定(セクション7を参照)。

有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質

混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤 ハロゲン化合物。金属の細分化。アミン。フッ素。三フッ化塩素。ナトリウム。カリウム。バリウム。カルシウム。

危険有害な分解生成物

通常の使用条件下では予想されない。260°Cを超えると分解し、フッ化水素、塩化水素、クロロトリフルオロエチレン、その他の毒性有機フッ素化合物を放出します。炭素酸化物(CO、CO₂)。シリカ化合物。フッ化カルボニル。

セクション11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

考えられる暴露経路 : 経皮、経口、吸入

ピュア・グープ

安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

潜在的なヒトの健康に対する有害性 : 利用可能なデータに基づく、分類基準を満たしていない。
害作用および症状

急性毒性(経口)	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
急性毒性(経皮)	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
急性毒性(吸入)	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
皮膚腐食性／刺激性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
呼吸器感作性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
皮膚感作性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
呼吸器官系または皮膚感作性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
生殖細胞変異原性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
発がん性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
生殖毒性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
STOT－単回暴露	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
特定標的臓器毒性(STOT)－反復暴露	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
吸引性呼吸器有害性	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
その他の情報	: 追加情報なし

セクション12: 環境影響情報

毒性

水生環境有害性、短期(急性)	: 未分類。(利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない)
水生環境有害性、長期(慢性)	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。

残留性および分解性

ピュア・グープ	
残留性および分解性	立証されていない。

生物蓄積性の可能性

ピュア・グープ	
生物蓄積性の可能性	立証されていない。

土壤中の移動性

追加情報なし

その他の有害な影響

オゾン層に有害	: 未分類。利用可能な試験データに基づく、分類基準を満たしていない。
その他の情報	: 環境への放出を避けること。

セクション13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

推奨される廃棄方法	: 内容物／容器は国際／国／都道府県／市区町村の規則に従って廃棄すること。
その他の情報	: 空にした容器が有害である可能性あり。すべての使用上の注意に従うこと。
生態系 - 廃棄物質	: 環境への放出を避けること。

セクション14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDSの起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDSが発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

UNRTDGに準拠

輸送規制なし

IATAに準拠

輸送規制なし

IMDG/IMOに準拠

輸送規制なし

MARPOL条約の付属書類IIおよびIBC Codeに従うばら積み輸送

該当なし

その他の情報

その他の情報 : 補足情報なし

セクション15:適用法令

適用法令

追加情報なし

セクション16:その他の情報

作成日または最新改訂日

: 2024/05/06

参考文献

: 本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート(SDS)の要件JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準じて作成された。

データソース略語の用語集

ATSDR: 有害物質・疾病登録庁(米国保健福祉省)

AU_WES: オーストラリアWES

CHEMVIEW: ChemView(米国環境保護庁)

EC_RAR: 欧州委員会更新評価報告書

EC_SCOEL: 欧州委員会職業暴露限界に関する科学委員会

ECETOC: 欧州化学物質生態毒性・毒性センター

ECHA_API: 欧州化学品庁API

ECHA_RAC: ECHAリスク評価委員会

EFSA: 欧州食品安全機関

EPA: 米国環境保護庁

EPA_AEGL: 急性暴露ガイドラインレベル(米国環境保護庁)

EPA_FIFRA: 連邦殺虫剤・殺菌剤・殺鼠剤法再登録資格決定(米国環境保護庁)

EPA_HPV: 大量生産化学物質(米国環境保護庁)

EPA_TRED: 許容度再評価の適格性判断に関するリスク評価(米国環境保護庁)

EU_CLH: 欧州連合調和分類およびラベリング提案

EU_RAR: 欧州連合リスク評価書

FOOD_JOURN: Food Research Journal(1956年)

IARC: 国際がん研究機関

IDLH: 米国国立労働安全衛生研究所の急性の毒性限度(「生命または健康に対する差し迫った危険」の値プロファイル)

IUCLID: 国際統一化学情報データベース

JAPAN_GHS: 分類データに関する日本のGHS基準

JP_J-CHECK: 日本 J-Check

KR_NIER: 韓国国立環境科学院の評価

NICNAS: オーストラリア国家工業化学品届出審査機構

NIOSH: 米国労働安全衛生研究所(米国保健福祉省)

NLM_CIP: 米国国立医学図書館ChemIDplusデータベース

NLM_HSDB: 米国国立医学図書館有害物質データバンク

NLM_PUBMED: 米国国立医学図書館PubMedデータベース

NTP: 国家毒性プログラム

NZ_CCID: ニュージーランド化学物質分類および情報データベース

OECD_EHSP: 環境・健康・安全に関する出版物(経済協力開発機構)

OECD_SIDS: スクリーニング情報データセット(経済協力開発機構)

WHO: 世界保健機関

本情報は現有知識をもとにしており、健康、安全、環境面での要件のみを目的に製品の特徴を記載したものである。よって、製品の個別の特性を保証すると解釈されることがあってはならない。

日本 GHS SDS